

個々の自立活動で指導すべき課題を明確化し、
自立活動の時間での指導の在り方の検討・実践・改善を進める。

1 研究の概要

今年度より、本校では全教育課程に自立活動の時間を設定した。自立活動では、各教科等の学習が十分できるように心身の調和的発達を基盤を築いていくことを目指している。そのため、一人一人違っている障害による困難や改善の方法に合わせて実施していくことが求められている。小学部には様々な実態の児童が在籍しており日々学習に取り組んでいる。今年度の現職教育では、昨年度まで取り組んでいた自立活動における流れ図を簡略させたもの(徳島県立総合教育センターが作成)(以降「流れ図」)を活用し、児童の困難さの原因や背景を探り、何を指導するのか「指導すべき課題」を明確にした上で、自立活動の指導を計画し実践する。流れ図を使って実態把握から指導内容までを整理することで児童の課題や目標を明確にし、学年で一貫した指導を継続することができるようにしたい。

2 実施方法

1学期は、全児童の「流れ図」の作成を行い、そのなかから各学年の対象児童を1名抽出し、児童の実態把握、指導すべき課題の整理、指導目標と具体的な指導内容の設定を行った。各学年で作成した「流れ図」を部内で共有し、意見交換・共通理解を図った。設定した目標に沿って2学期で指導・授業実践を行い、学期末には学年で指導の経過や結果を共有し、評価を行った。部内で流れ図に沿って実際の指導場面や児童の様子、達成された目標等を写真や動画を用いて共有し、意見交換・共通理解を図り、評価や次年度の課題について検討を行った。

3 実施期間・実施回数

令和6年5月から令和7年1月

- ・流れ図解説と研究の進め方の確認・・・(1) 5月16日
- ・各学年での流れ図の作成と検討・・・(2) 6月21日
- ・作成した流れ図の共有・・・(3) 6月27日 (4) 7月8日
- ・実践期間・・・9月 10月 11月
- ・各学年での流れ図の評価・・・(5) 12月5日
- ・実践報告・・・(6) 1月8日 (7) 1月14日
- ・まとめ・・・(8) 1月28日

生徒理解を深め、生徒の意欲を引き出すために
～ 自立活動における指導内容と支援の在り方の検討 ～

1 研究の概要

中学部では昨年度に続き、生徒理解や生徒指導のための研修の充実と、生徒の意欲を引き出す授業づくりを目指して研究に取り組んできた。特に、今年度から全教育課程に自立活動の時間を設定したことから、具体的な指導内容や効果的な支援の在り方について、検討をしてきた。具体的には、学年ごとのグループに分かれて、自立活動の個別の指導計画をもとに、研究の対象となる一人の生徒を挙げ、実態を明らかにして生徒理解を深め、課題を探っていった。本人や保護者の願いをもとに目標を設定したうえで実践をし、評価をおこなった。

2 実施方法

① 研修会

中学部の職員を講師に「自立活動について」の研修会を行った。自立活動の教育課程上の位置づけ、自立活動の内容と取り扱いについての説明の後、自立活動6区分27項目については具体的な例を挙げての研修を行った。

② 事例検討

先生方を学年ごとのグループに分け、対象生徒に対してより関わりの深い集団で検討を行った。『事例検討シート』を用い、本人や保護者の願いをもとに、気になる姿、見立て、中心的な課題、ストロングポイントなどを挙げて実態を明らかにしていった。その後、目指す姿や指導の留意点などを話し合いながら検討し実践につなげていった。

3 実施期間・実施回数

5月	16日(木)	現職教育のテーマについて
6月	11日(火)	事例検討①(グループ) ※気になる姿、見立て、課題他
6月	20日(木)	事例検討②(グループ) //
7月	5日(金)	学部内発表「研究対象の生徒について」
7月	8日(月)	研修会「自立活動について」
9月	3日(火)	事例検討③(グループ) ※後期目標と指導の留意点
11月	14日(木)	事例検討④(グループ) ※中間評価と指導の変更点
12月	10日(火)	事例検討⑤(グループ) //
1月	23日(木)	事例検討⑥(グループ) ※年間評価
1月	28日(火)	学部内発表「年間の評価とまとめ」

自立と社会参加を目指して
～自立活動における指導内容の検討と実践～

1 研究の概要

高等部では、今年度より全教育課程に自立活動の時間を設定したことから、具体的な指導内容の検討と実践について高等部職員で話し合いをしながら進めた。これまでは各教科の中で個々の課題や目標となることを意識しながら指導を行ってきたが、毎週1時間をクラスやグループとして一斉授業することとした。生徒の実態に応じた内容が設定できるか不安なことは多々あったが、学年ごとの実態に合わせてクラスごとやグループごとでそれぞれが創意工夫しながら高等部の土台となるものを作ることができるように取り組んだ。

2 実施方法

① 他県の資料やYouTubeでの動画視聴等での勉強会

前期は、自立活動について基礎的な知識や具体的なイメージをもつために、他県の資料を参考にしたり、自立活動のあり方や実践しているYouTubeでの動画を視聴したりすることで取り組みについて参考にしながら話し合った。1年団と2年団はクラスごとで、3年団はグループごとに取り組んだ。通常学級では、主に課題となっている人との関わり方を学ぶため、ソーシャルスキルトレーニングがテーマとして土台となり、重複学級では、主に身体のことと人との関わり方や人との距離感がテーマとして土台になった。

② 各学年、クラスの実践例の発表・グループ討議

後期では、クラスやグループごとにこれまで実践してきた授業の発表を行い、それぞれの様子の写真を見ながら実際に使用した資料・教材や作成したワークシートの説明をしながら質疑応答や討論会を行った。また、毎回行った授業のデータを保存し、どの職員も活用できるようにした。

3 実施期間・実施回数

- ・年間予定と目標の確認、研修：YouTubeでの動画視聴等・・・(2) 5月16日、30日
- ・考察（前半を振り返って）※クラスごとに情報交換・・・(1) 7月2日
- ・中間アンケート ※縦割りグループの検討・・・(1) 9月10日
- ・事例検討（クラス、グループごと）・・・(4) 9月30日、10月29日、11月12日、11月19日
- ・来年度に向けて・・・(1) 12月10日
- ・まとめ・・・(1) 1月14日